

会 議 録

会 議 名	令和2年度第2回3市ごみ減量推進市民会議		
事 務 局 (担 当 課)	国分寺市ごみ減量推進課、日野市ごみゼロ推進課、 小金井市ごみ対策課		
開 催 日 時	令和2年11月5日(木) 午後2時00分～		
開 催 場 所	日野市クリーンセンター プラスチック類資源化施設 2階 多目的室		
出 席 者	委 員	<出席者：16名> (学識) 宮脇委員長 (日 野 市 委 員) 伊藤委員・大木委員・小野寺委員・比留間委員 (国分寺市 委 員) 小泉委員・佐藤委員・八ツ藤委員・石垣委員 (小金井市 委 員) 石田委員・斎藤委員・林委員・山田委員 (行政) 高尾委員(日)・波岡委員長代理(国)・井上委員(浅)	
	事 務 局	日 野 市：佐々木課長補佐、山口 国分寺市：佐藤係長、野崎、大野 小金井市：高田係長、八方	
欠 席 者	深澤委員(小)		
傍聴者の可否	可	傍 聴 者 数	8人
会 議 次 第	1 小委員会からの中間報告 (1) 情報発信・環境学習グループ (2) 減量グループ 2 その他 3 閉会		
会 議 結 果	別紙審議経過のとおり		
提 出 資 料	別添のとおり		
そ の 他			

<p>宮脇委員長</p>	<p>細かく過去のお話などを少し書かせていただいておりますけれども、この過去2年間に、この市民会議で様々な検討をしていただいて、各市で取り組んでいただく。それから、広報活動の様々な取組や会議が提案によって行われておりました。</p> <p>今期、また2年間、メンバーはそのままということで。それから、新しく加わっていただいた委員の皆様方におかれましては、いずれの委員の方においても、ぜひ積極的なご意見を頂きまして、ごみ減量等について、よりよい3市の取組が行われるように提言などをまとめていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>今回休ませていただいている間に、それぞれの小委員会のレジメもお送りいただいております。細かな取組をしていただいていることに感謝いたします。</p> <p>本日は、そのような内容で中間発表をしていただくと伺っておりますので、ぜひ丁寧な説明、それから情報共有をこの場で、それぞれのグループのご協力をいただければと思っておりますので、よろしくお願い致します。</p> <p>それでは、ただいまより会議を開催したいと思います。</p> <p>会議を始める前に、傍聴について事務局よりお願いいたします。</p>
<p>事務局</p>	<p>本日は、傍聴を希望の方がおられますので、よろしければこの後入れさせていただきますと思います。よろしくお願いいたします。</p>
<p>宮脇委員長</p>	<p>よろしいでしょうか。</p> <p>この会議は、原則公開となっておりますので、傍聴者の方にお入りいただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、議事に沿って会議を進めてまいりたいと思っております。議事次第の1番目から順番に進めてまいります。</p> <p>議事次第1「小委員会からの中間報告」ということになります。初めに、情報発信・環境学習グループから現在の検討内容についてご報告を頂きたいと思っております。情報グループの方、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
<p>石田委員（小）</p>	<p>情報発信・環境教育グループの石田です。簡単にまとめた中間報告をさせていただきます。初めにまずこのグループ、以下「情報グループ」と省略をさせていただきますが、これまでに2回小委員会を開催しております。この浅川清流環境組合、以下「組合」と省略をさせていただきますが、この見学と今年度何をするのか、どのように進めるかということで議論を始めたところでありました。</p> <p>以下、少し報告を具体的にさせていただきます。</p> <p>第1回は、9月10日午後からでした。4月からこの施設が稼働を始めたわけですが、見学をさせていただきました。まさにコロナ禍のさなかということだったので、少人数だということで、組合の皆さんにはご理解を頂きまして実行することができました。どうもありがとうございます。</p>

見学の後、感想ということでは、この施設そのものに関して説明・展示など、これはおおむねよくできているのではないかというのが全体的な評価であります。

幾つか指摘事項も出ました。ここでは簡単に下の2つだけ述べておきます。1つは、この施設の周辺の皆さんの思いを理解してもらうための説明や掲示も必要ではないかということ。

それから、可燃物に入れてはいけないものに関する表示はあったのですが、もっと大きく書いたほうが見やすいのではないか。この場で再確認をしてもらうためには、そのほうがよいのではないかななどの意見が出ました。

見学に関しては、今日、減量グループの方は見学されるそうなので、あまり我々の言うことが先入観にならないように、ここはそれだけにしておきます。それが第1回目でした。

第2回目は、10月16日の午前中に小金井市で開催しました。そのときには、このグループの立場としてやるべきこと、あるいは求められることは何かということで、次の2つではないかと考えました。

1つは、3市市民会議設置に関する協定書というのがありまして、これは皆さんに配布されたと思うのですが、そこに定められているような所掌事項において、このグループが担う事項を確認して、行政からの情報発信への提言を行うということが1つかなと。

それからもう1つは、これは廃棄物減量に関して、それを推進するために必要な環境教育について検討するということです。

具体的に、まず、該当する項目はどういうことがあるかなというので、7つほど洗い出しました。

まず1番目として、組合に関する情報提供に関して、前回の見学も踏まえて、さらに何か意見や提言はないかということ伺いました。

それから第2番目に、廃棄物に関して、特に可燃物の排出量削減に関する市民への要求や意識づけのための提言の在り方。それは、減量グループの提言する目標とか項目とか、その他の達成年度等もあると思いますので、そこを踏まえて、3市の市民への周知と問題意識を高めるための行政からの情報提供があると思いますので、それに対して提言や助言が求められるのかなと思います。

それから3番目に、周辺住民の皆さんの要望や思い。それに関する情報発信及び3市市民への意識づけに関してということになるかと思いますが、これも行政からの情報提供に対しての提言や助言が求められるのかなと思います。

それから4番目として、可燃物の焼却及び不燃物等のフローや実態の周知に関して。これは3市それぞれの現行のフローなど、どのように市民に周知してもらうか、あるいは分類は周知されていると思うのですが、いわゆるライフサイクルアセスメントのようなことも考える必要があるという点です。

それから5番目にごみ減量。これは資源化されるものも含め、その推移と処理に係る行政の費用などに関しても考える必要があるだ

ろうと思います。これは廃棄物減量の取組で、市民に一層の協力、理解を得るための情報提供、あるいは問題提起があると思いますので、それに対して情報提供が求められるかと思います。

それから、6番目として次期可燃物処理場に関する問題提起及び3市、特に小金井市、国分寺市の市民への意識づけに関して。これは、手段としては市報とか広報とかホームページ等を活用するとか、環境教育としての講習会をやるということが考えられるのですが、それを具体的にどう行うか。さらに、それ以外の情報提供の手段はないのか考える必要があるのではないかと思います。

それから7番目に、30年先に大人となる今の小・中学生です。これらの学生の皆さんへの環境教育に関して考えておくことが大切なのではないかと思います。

次期可燃物処理場の話をするのは失礼かもしれませんが、その設置に主導的に取り組んでくれるキーパーソンの養成には長期的な教育ビジョンが必要なのですが、それに基づいてやっていく。それと、当然、一般市民への意識づけ及び合意形成が必要で、これらの準備は、今のうちからやっておかなければ間に合わなくなるのではないかと。これも特に小金井市、国分寺市の行政と市民に課せられた課題であろうと考えております。

考えるべき項目だと思って洗い出した7つですが、それに関して、参加された委員の皆さんからの意見及び事務局からの見解と提言をまとめました。これは大きく4つに分けてまとめてあります。

1つは、まず情報発信のツール等に関してなのですが、これは市報、広報、ホームページのほかにツールが検討できればということが会議でも出ました。

それから、組合に関係する情報の発信に関わる意見として出たのは、見学に関する案内を発信してはどうか、見学できますということを広報等々で知らせるといことになるかだと思います。

それから、同じ見学するのでも、学生、小学生が現状多いと思うのですが、父兄も伴っての見学にしてみてもどうかというご提案もありました。それから、ごみ処理場を見学に行こうという、スローガンを募集してみたらどうか。それによって、単にスローガンを最初から投げるのではなくて、もう少し意識が広がり、市民の皆さんへの意識の向上になるのではないかと思います。

それから、組合の職員による現場の声も発信してみてもどうかということで、これも大切かだと思います。それから、施設で行われている実験などを情報発信してはどうかと。現在、廃棄物の種類による臭いの違いを体験できる部屋があります。これは、今回、見学に行かれる方は経験されたら面白いと思いますが、そういうようなものを発信してはどうか等々の意見が出ました。

それから、3番目に再々ですが、ごみ減量に関する情報の発信に関しては、廃棄量の実績・推移や、実態調査に関して、成分とかいろいろ内訳、そういったものの情報発信を行ってはどうかということです。そして、各市の処理事業の紹介、そして比較の情報を発信してはどうかと。それからもう1つ、各市の水銀系廃棄物の回収

キャンペーンなんかの取組も発信してはどうかと。これは、実際もう始めることになっていると思いますので。こういったような意見が出ました。

それから、環境教育の在り方に関して、処理場を見学すればいいということではなくて、それで不足している情報に関してどういう教育を行うか、その検討が必要ではないかということ。

それから、浅川周辺の住民への感謝の気持ちの醸成や次期可燃物処理場設置に向けての市民の意識づけのための環境教育というのはどういうことか、議論する必要があるという意見が出ました。

いろいろ意見が出たのですが、結論として、今年度の取組みとしては、回数はあと後半3回、2時間掛ける3回しかないという制限がありますので、7つの全項目を検討するのは難しいので、取りあえず、今年度は環境教育を軸に審議を進めるということになっています。

ただ、将来への課題ということですが、これは当然、7つある項目について、重要度、優先度も検討した上で、次期メンバーの皆さんへ申し渡し事項としてまとめて渡したいと考えています。

第2回に関しては以上です。

第3回は、11月17日午前中に小金井で開催する予定です。

その他は、今の段階では追加するものではありません。以上です。

宮脇委員長

ありがとうございました。ただいまご報告いただきました内容につきまして、ご質問、ご意見などございましたら、よろしく願います。質問だけではなくて、情報発信、環境学習、さらにこんなことを検討してほしいこととかありましたら、減量グループの方々などもご発言いただければと思います。

議事要点録作成のためにご発言の前にお名前を発言していただくから質問を始めていただければと思いますので、よろしく願います。

それでは、どなたか質問とかご意見ございますでしょうか。いかがでしょうか。

林委員（小）

すみません。小金井市の林です。いろいろな減量施策というのは、各市で様々に取り上げられてきて、市民が取り組んできたと思っているのですけれども、何としてもそれが広がらない、伝わらないというのが一番の問題だろうと。そういった意味では、情報発信というのは非常に重要なテーマと思っていまして、これは前期にもこの同じグループでやられたかと思うのですけれども、各市のこれまでの広報だとか情報発信の仕方がどの程度でどういうものだったのか。

例えば、小金井市の例で言いますと、年に3回でしたか。市報に挟み込んだごみ特集号という新聞のような記事や、今、スマートフォンに入っているごみカレンダーなどアプリを使って発信しているとか、そういう媒体ではやっているのですけれども、これをさらに乗り越える何か共通のものが他市にはないのかなということも知

<p>宮脇委員長</p>	<p>りたいなと思ひまして、何かその辺の検討というのはされたかどうか1つお聞きしたい。</p> <p>それから、市内で減量活動を続けていまして思うのは、減量減量と言いつけながら、なぜ分別が必要なのか、なかなか市民の皆さんが理解できていないのではないかと。</p> <p>例えば下流側の処理がどういう流れになっていて、どういうふうになるから、これが混ざってしまうと困るのですとか、再利用ができなくなってしまうとか、そういうことを含めての教育がなかなかできていないのではないかなと思っています。</p> <p>これは希望なのですが、ぜひそういったものを、各市とも今までの資料の中で下流側はこう行われていますというフローチャートはお示しされていると思うのですが、具体的に、それが混ざった場合にどうなるのか。なぜ混ぜてはいけないのか、分別が必要なのかということが分かるようなものを検討していただけないかなという思ひです。長くなってすみません。</p> <p>ありがとうございます。私のほうでちょっとまとめさせてもらくと、2点あって、小金井市でも、いずれの市でも市報やホームページで広報されているのだけれども、それ以上に何か新しい取組をしていないかということ調べられたかどうかということですね。</p> <p>それと、2点目が何で分別をしなければいけないのか。これはすごく実は大きな問題だと思います。もし、その辺も何か調べられたようなことがございましたら、各市の取組についてということで、何かございますでしょうか。</p>
<p>八ツ藤委員（国）</p>	<p>国分寺の八ツ藤です。前回、情報グループの方のリーダーをやっておりました。前回、3市にヒヤリングをしまして、情報発信の状況、例えば、市報でどう発信しているのか、それから、ごみ専門紙みたいなものが各市にありますね。それはどういう頻度で、内容的にはどういうものが出ているか、施設の関係の情報をどう集めたのか、それを一覧表にして、皆さんにお配りしてあります。ぜひ、新しい情報メンバーの中で、これに加えるものがあれば加えていただいて、新しい施策があれば、これに加えていただければ。一応、一目分かるようになっております。それから、この施設の見学関係ですが、これについても最後のところで、まだ施設稼働前でしたけれども、こういう掲示物や展示物あったらいいねとか、見学のツールや受付の設置とか、そういうのを一応要望事項という形でまとめてありますので、こちらの見学をされたということなのですけれども、その辺も踏まえて、加筆すべきことがあれば、ぜひ提案していただければということで。</p> <p>前回の情報グループの責任者として、次のグループに引き継ぎたいという趣旨でお話をさせていただきました。</p>
<p>宮脇委員長</p>	<p>ありがとうございます。いかがですか。もう少し追加であれば。</p>

林委員（小）	<p>今の前半の各市の比較というのは、確かに資料を作られていた記憶はあるのですが、その比較の中で、この市のこれはやっぱりいいねとか、こういうことはこうしたほうがいいのではないかとか、現状把握したうえで、そういった意見というか、お話はなかったのですけど。</p>
八ツ藤委員（国）	<p>残念ながら比較にとどまっているという感じだと思います。ほぼ3市とも同じような傾向なのですが、最近はスマートフォンのツイッターなんかでやっている。国分寺も最近やり出したのですけどね。そういうちょっと新しい手法をやるとか、そういう形ではその時は検討をしていなかった。</p> <p>だから、現状を教わっていただいて、さらに変わるもの。あるいはあなたの市がよりいいことをやっているというのをぜひ取り出していただいて、皆さんでご相談いただければ。まだ完成系ではないという感じを受けます。</p>
宮脇委員長	<p>ありがとうございました。それでは、そのほかも含めて、石田委員ご発言をお願いします。</p>
石田委員（小）	<p>前は項目出しで、まだ話を始めたところですので、具体的な内容はまだ何も進んでいません。例えば、今、おっしゃったような提案で出てきたものは、喫緊にやらなければいけない課題なのです。1つとても心配しているのは、個人的な心配と言われるかもしれませんが、20年後から逆に考えてきて準備をしなければいけないものがもう1つあると。それも含めてやらないと、確かに、今のおっしゃることは絶対に必要なのは自明なのですが、例えば行政とか一般的ないろいろ取り組まれている市民活動とかも含めてありますから、それに対してもあえてどうのこうのと言うつもりはなくて、それはぜひやっていただきたいのですけれども。それと並行して先のことを考えなければいけないかなと、私個人は、ここでは必要なのではないかと思っています。今の問題は当然やらなければいけない。</p>
宮脇委員長	<p>ありがとうございました。それでは、そのほかご意見いかがでしょうか。今日は、先ほどご紹介いただきましたように、今後7点ぐらい重要項目がありますので、非常に重たい、かなり大変な課題だと思いますので、それについての委員のご意見を要点ごとにまとめていただいているのですが、何か今、頂いた内容についてご質問ございますでしょうか。</p> <p>それでは、最後にまた戻っても可能ですので、一旦、減量グループの報告を伺おうかと思えます。減量グループのほうからご報告をお願いいたします。</p>
小野寺委員（日）	<p>減量グループのリーダーをやっています小野寺です。よろしくお</p>

願います。

減量グループでは、今まで3回会議をやっているのですけれども、今後どういことをやっていったらいいかということ、最初の会議であらかじめ決めまして、まず現在、3市がどういごみ減量化・資源化の取組をやっているか。この現状把握をまずやって、それから、その中で今後の課題を抽出していったらいいのではないかということ、を大まかな方向性ですけど話し合いました。

それに基づいて、過去2回具体的にテーマについてやったわけです。ごみ減量グループにおける検討テーマの案として一応お配りさせていただきました。

大きく分けまして、短期目標に向けた検討テーマと、長期目標に向けた検討テーマと分けております。長期のほうについては、今のところ全く触れていませんが、とにかく短期についてやろうではないかと。短期というのが、どのくらいの年次を想定したらいいのかということになります、大体3年とか5年というところが常識的なところではないかと思ひます。

取りあえず、現在の取組をベースにし、その延長線上での取組ということになりますけど、とにかく今、3市の行政がどうい取組をしているかということから入っていこうと。

第1日目に3市から減量の取組について報告を頂きました。ここにテーマを挙げていますが、最初に3市のごみ量の現状把握です。今年に入りまして、かなり様変わりしていますので、そこをしっかりと把握したいと。次のステージとしては、3市のごみ減量・資源化の取組の現状把握、具体的に項目を挙げますと、生ごみの減量・資源化それから剪定枝・落ち葉・草の分別収集・資源化。申し訳ないのですが、次にプラスチックごみの減量・資源化というのがあるのですが、ここで書き落としてしまつてすみません。つけ加えていただければと。4番目が紙ごみの減量・資源化。5番目が、その他のごみの減量・資源化。6番目として事業系持ち込みごみの削減。7番目として、ごみ減量・資源物の分別の徹底を促すような動機づけについてです。それから、8番目として、ごみ減量・資源化推進のための協働体制。これは行政と市民の間で今もなんらかの形で3市ともこういう体制を作つておられると思うのですが、これについての見直し。

それから、次のステージとしては取組課題の抽出です。この現状の中で、どうい課題があるかということ、を抽出。最後に、その抽出された課題の中から短期の数値目標を設定して重点施策を提案します。時間が結構それぞれかかっていますので、果たして今年度中にここまでいけるかどうかは分かりませんが、一応じっくりやっていきたいと思ひています。

それから最後につけ加えますと、長期目標で一応想定しているテーマとしては、今まで全くやつていなかった新たな取組への挑戦ということで、全市を対象とした生ごみ分別収集・資源化の調査研究です。それから、2つ目は、今かなりリサイクル技術が普及されつつある紙おむつの資源化の調査研究。こういったことを一応想定

しております。

具体的にどういことを今までやってきたかといいますと、まず3市のごみ量の現況です。これは、今年度4月から8月までをまとめてあります。

皆さん大体ご存じのことなのですけれども、各市とも可燃ごみ、不燃ごみ、粗大ごみ、有害ごみとあるわけですけど、これを要は、処分ごみというくくりでやっております。処分ごみというのは聞き慣れないと思うのですが、ヤマヤ先生が使っている言葉で、非常にこれは便利だなと思ってここで使わせてもらっています。それ以外は資源ごみです。

処分ごみについては、各市、特に日野市の場合は、プラスチックの資源化をやったとか、国分寺市や小金井市は、事業系ごみの価格を改定したりしているの、かなり変動はあります。ただ、これは今の世の中の流れとはちょっと違うのではないかなと思います。今、処分ごみというのは増えているのですね。家庭ごみについては、事業系ごみは減っているのですが、そういった動きがあるのですが、ここではちょっと別な動きをしております。

やはり注目すべきは資源物です。これが軒並み増加しているということです。この背景には、コロナ禍による巣ごもりです。家庭内の飲食とか断捨離が増えて、定額の給付が支給されたりして、家電製品の買い換えが発生したとか、こういった要因で資源物が増えているということがあります。

あとは、個々の市の施策の変更がありまして、これもこの数字に反映されています。それは詳しく書いてありますけれども、これはちょっと省略させていただきます。

ここでの課題は、排出されるごみの6割から7割は、処分ごみなのです。ほとんどが焼却処分されているわけなのですが、これをいかにして削減していくか、これが一応課題ではないかということで、今後、この辺をターゲットにいろいろと検討していきたいと思っております。

次のページをお願いします。先ほどのスケジュールに基づいて、まず生ごみの減量・資源化についてです。3市からの報告をまとめたものがこれです。あくまでも現状どういう取組をしているかということを書いています。細かくご説明したほうがいいですか。

宮脇委員長

適当なところで。

小野寺委員（日）

大きく生ごみの取組については、発生抑制、これは言葉を変えれば食品ロスの削減ということになります。これが1番目。

それから2番目は、生ごみの自家処理です。3番目としては、生ごみの分別収集・資源化です。これは行政がやっているわけなのですが、このように大きく分けまして、それぞれについて各市がどういうことをやっているかということを見えています。

まず、発生抑制については生ごみを出さない取組です。これについては、各市とも、今日、市報等の媒体で啓発というのがなされて

います。それとフードドライブです。これも3市とも取り入れているわけです。それから3つ目が飲食店での食べ切り運動です。3010運動と言いまして、これも3市とも啓発しております。

それから生ごみの自家処理です。これは3市それぞれ特徴があるのですけれども、日野市と国分寺市は、推奨する生ごみ処理機を絞りまして、日野市の場合だとダンボールコンポスト、国分寺市の場合だとごみけしくんです。この普及活動に力を入れています。

それから小金井市は、かなりユニークなのですが、3つの方法を取っておりまして、1つは、家庭ごみの生ごみ処理機です。これは主として乾燥式です。それから2番目としましては、一部の小中学校に、家庭から小・中学校の大型生ごみ処理機に家庭ごみを投入できるようなシステムをとっています。期間としては夏休みとか土曜日に限定されていますけど。それから3番目は、集合住宅の場合は、大型生ごみ処理機で共同処理をしている。こういったことをやっているわけです。

各市それぞれ一番特徴が出ているのが、生ごみ分別収集・資源化です。皆さんご存じない方が多いと思うのですけれども、日野市の場合は、ある地区にせせらぎ農園という共同農園を市民が作りまして、市民団体が約200世帯から生ごみを自分たちが軽トラで回収しております。ここの650坪の畑に生ごみを直接入れて土ごと発酵させて、野菜とかを栽培している。

これは、新しい都市農業の形とか、市民の居場所とか、保育園児の農体験の場として多方面から注目をされていまして、毎年、市内外から約2,500名の見学者が訪れています。もう数年続いております。これは、日野市の委託事業としてやっており、費用対効果から疑問を持つ方はいらっしゃるかも知れませんが、市からは評価されています。

今、農家から農地を借りてやっていますが、区画整理の話が進んでいまして、来年の3月をもって一応閉鎖しなくてはなりません。その代替え地を市のほうで確保して移転する予定だと思えます。

国分寺市の場合は、約1,000世帯から2つのルートで生ごみを収集しています。それを瑞穂町の民間の堆肥化施設で堆肥化しています。

この収集ルートとして、1つは個人を対象とした拠点収集。それから2つ目は、6世帯以上の団体を作って、その代表として集積所にそれを持ち寄ってもらうという集積所収集をやっています。

それから、小金井市の場合は、乾燥式生ごみ処理機で処理した乾燥物です。これを3つのルートで集めて、それをやはり民間の施設で堆肥化していると。1つのルートは公共施設での拠点収集です。それから、2つ目は家庭からの戸別収集。3つ目は、大型生ごみ処理機による生成物の収集と。これは小・中学校ですね。また集合住宅でやっているものもあり、本当にユニークな取組をやっております。

それから次に、剪定枝・落ち葉・草の分別収集・資源化です。これについては、大きく剪定枝と落ち葉・草と大きく2つに分けてま

とめております。

剪定枝については、それぞれ戸別収集で無料でやっております。

日野市の場合だけは、これに加えて拠点収集もやっております。ただ、拠点収集につきましては指定日時以外の持込みや、太い幹や根といったものの不法投棄、これ全て業者なのですけれども、こういったものが後を絶たないということで、年内 12 月をもってこれは廃止され、戸別収集に一本化されます。

落ち葉・草については、日野市の場合は、今まで家庭収集でやっていたのですが、これは先ほども申しましたように、剪定枝と一緒に廃止になります。したがって、落ち葉・草について日野市は当分収集はなしということになります。もちろん可燃ごみとしては収集されます。

国分寺市の場合は、今までは燃やせるごみの収集日に束ねて排出されると無料です。そういう意味では資源化されていなかったのですけれども、来年度から剪定枝と一緒に収集して資源化されるという予定のようです。

小金井市は、剪定枝と一緒に収集して資源化する状況になっています。小金井市は、完ぺきに剪定枝と落ち葉・草について収集されていますが 2019 年度では 1,550 トンを収集してこれを資源化しているそうです。ただし、そのお金として収集運搬に 1 億 2,000 万、選別等の処理に 5,000 万。これには先ほどの乾燥生ごみの分も含まれていますけど、これは量的にはわずかなので、ほとんどが枝、草、葉と考えていただいてもいいそうです。

それから、日野市の場合も、拠点収集分だけの収入なのですが、年間約 200 トンです。今のところ、その先ごみゼロプランという長期計画として 2021 年度までに年間 300 トンまでもっていきたいという目標は掲げております。

国分寺市の場合は、現在は剪定枝だけで 169 トン。来年度からは、この 3 点を一緒に集めて、年間 1,300 トンまでもっていきたいと考えておられるようです。費用は年間 5,000 万を見込んでいます。

資源化についてここには書いておりませんが、資源化そのものは、民間施設に持って行くわけなのですけれども、大体民間施設でチップ化して、それを国分寺市と小金井市の場合は、バイオマス発電施設の燃料として使っている状況のようです。

ちょっと長くなりましたけど、以上で終わらせていただきます。

宮脇委員長

ご報告ありがとうございました。ただいまの減量グループの内容につきまして、質問、ご意見などあればお願いいたします。

浪岡委員（国）

国分寺市の波岡です。今の委員の発表で、修正と補足をお願いしたいと思います。

国分寺市の剪定枝のところですか。最初の剪定枝のところ週 1 回と書いてありますが、今は 2 週に 1 回というところを担当は考えています。この変更予定というところですけど、まだ予算も何も確定と

	<p>かしているわけではございませんので、あくまで担当としては、そういったところをやりたいと考えているところです。</p> <p>それと、2段下の収集量のところ、年間 1,300 トンと書いてございますが、何分、戸別収集にしてどれくらいの量が出るのかなかなか読めないところがあって、今のところ 500 トンを考えているところです。</p> <p>私のほうからは以上です。</p>
林委員（小）	1,300 トンじゃなくて 500 トンですか。
小野寺委員（日）	控え目に。
宮脇委員長	<p>補足ありがとうございます。そのほか追加意見、または質問などございましたらよろしくお願いたします。さらなる減量に向けてそれぞれの市の現状について整理をしていただいて、各市の取組に少し差がありますけれども。</p>
小野寺委員（日）	<p>検討状況について、つけ加えさせていただきますけど、初日に、このごみ量の現状と生ごみについて、何しろじっくり質疑応答も含めてかなり突っ込んだ意見交換をやっておりますので、なかなか進まなかったということもあります。時間をたっぷりかけて……。</p> <p>2番目の剪定枝のところについても、同様に時間はたっぷりかけましたので、1日でこれしかできなかった状況です。次はプラスチックについて予定していますけど、やっぱりじっくりやっぺいこうかなと考えております。</p>
宮脇委員長	ありがとうございます。いかがでしょうか。
林委員（小）	<p>すみません。林です。今の剪定枝に関してなのですが、可燃ごみ削減の観点からご紹介ありましたけど、小金井市では 1,550 トンくらい削減につながっている。今までそれが全部可燃ごみだったかどうかはちょっと分からないのですが、いずれにしても、かなり大きな量の削減ができたと思っていますのです。それに対して、日野市も国分寺市も方向的には同じような剪定枝を資源化するということで、削減する方向で取り組まれているのだらうなと思っていますのです。日野市の落ち葉のところ、拠点収集（無料）と書いてありますけれども、これは現状のごみカレンダーでは有料と出ている。ですから無料ではないのではないかなと思っていたのですが。</p>
小野寺委員（日）	拠点収集については無料です。戸別収集は有料です。
林委員（小）	拠点収集。
小野寺委員（日）	戸別収集では有料なので。

林委員（小）	戸別収集では。拠点収集では無料と。有料袋に入れなくてもよかったですということですか。
小野寺委員（日）	そうです。
林委員（小）	その拠点収集を廃止するということですか。
小野寺委員（日）	そうです。
林委員（小）	ここで12月をもって廃止。
小野寺委員（日）	ですから、落ち葉。
林委員（小）	ということは、それは。
小野寺委員（日）	だから、戸別に可燃ごみとしては収集する。
林委員（小）	だから、落ち葉・草は、要は当面集めないということですか。
小野寺委員（日）	無料収集はないということ。
林委員（小）	要するに収集をしないから、集めないということは、要するに、可燃ごみの有料袋に入れて可燃ごみで処理しなければいけないと。
小野寺委員（日）	資源としては集めなくなります。
林委員（小）	分かりました。いずれにしても可燃ごみを減らすという観点からいくと、その辺も何か。
小野寺委員（日）	そうですね。やっぱり小金井市、国分寺市を見習わなくてはと。今後の課題ということで抽出される場所だと。
林委員（小）	ただ小金井市の場合にはここにも書いてありますけど、お金がやたらにかかってくるようなのがありますね。
小野寺委員（日）	そうですね。
林委員（小）	これもやっぱり相談していかなければいけないことかなと思います。ありがとうございます。
宮脇委員長	ご意見ありがとうございます。剪定枝の件というのは、資源化施設までの距離というか、非常に遠いところまで回らなければいけない。私も群馬県まで運ばなくてはいけないので、大変だなと思うのですが。 うまく3市で何か並んでやれば、地下に穴開けてとかできるとい

<p>小野寺委員（日）</p>	<p>いのですが、堆肥化施設は臭気問題とかあってなかなかできにくいということもあるのですが、チップ化であれば。非常に大事な視点だと思いますが 1,000 トンという年間の可燃ごみ量に与える影響は結構大きいのだなど、この数字を見てもですね。コストの点もちろん大事ですので、この辺をうまく調整できればいいのではないかと思います。</p> <p>今のところ、チップ化して、国分寺市と小金井市の場合はバイオマス発電施設の燃料に使ってられるわけですが、どちらかというと一般的には、家畜の敷き藁の代わりに使われているケースが多いのではないかと。そうすると近場で結構そういうことはできるようなのです。八王子にチップ化する施設がありますし、そこもやはり家畜用に使っています。そういうことも検討対象にはなるかと思えます。</p>
<p>宮脇委員長</p>	<p>貴重なご意見ありがとうございます</p> <p>今回、生ごみ、それから剪定枝などについて非常に議論されたという報告でございました。よろしい感じでしょうか。</p> <p>それでは、私のほうから感想などを少し述べさせていただければと思います。</p> <p>今日伺って、非常に両グループとも丁寧に議論をしていただいているなということと、月曜の段階で事前に各グループの資料を頂いて、レジュメも読ませていただいております。</p> <p>繰り返しにはなるのですが、全ての実行を短期間で全部するというのはまずもって無理だということです。この限られた時間の中でどこまで達成するかということで、重みづけをつけるということが非常に大事でして、情報グループのメンバーの皆さん方は、今回は環境教育に特に力を入れたい。それについても、先ほど石田委員からも頂いたように、現状の取組、林委員からのお話では、今の問題も兼ねている問題だからというお話もございましたし、今の情報グループのメンバーの方は、特に、将来の関係を重視、特に重みづけをしたということで環境教育、小中学生に向けた取組などをしたいということをおっしゃられておりますので、まずは、その辺りを進めていただくとよろしいのではないかなと思いました。非常に大事な視点だなと思っています。</p> <p>それから減量グループにお話を頂いたのですが、この中でも、特にやはりどの市、この3市はもちろんですが、日本全国、可燃ごみの中の重量ベースでいうと、やはり生ごみの重量は非常に大きいということで、収集運搬に対する負荷、当然、重たいものを車で運んで収集運搬しますので、その部分を含めても、水気の多い生ごみをどうやって減らしていくのかはすごく大事な視点です。</p> <p>ただ現状、何か先進的、全国を見てもこれをやれば特に、ここにおそろいの3市のようなサイズ感のある市です。人口規模の市での非常にうまくいった事例っていうのはなかなかない。やはり小さな自治体になりますと、いろいろな堆肥化、飼料化、その他もろもろ</p>

ございますので、食品ロスの話もそうですが、適正化ができるいろいろな技があるように思います。いろいろな先進的取組はあるのですが。やはり人口規模が 10 万人というようなレベルになりますと、どうしても周辺の環境の関係で資源化できるものできないもので分かれてくる。やはり大きな問題なので、ここにちょうどお集まりの皆様方は、そういう意味でいいますと、全国のいろいろな市のレベルの大きさ、人口規模の大きさからいうと比較的整った、同じ人口規模の市がそろっていますので、その中でできることを丁寧に見つめていただいて、提案いただければなと思っています。

特に小金井市は、先ほどお金の話も出ておりましたけれども、コストをかけてでも減らすという対策を取られてこられていらっしゃるし、それももちろん大事ですし、それ以外の市が決して取組をしていないわけではなくて、コスト発生を見なければいけないところもあって、ごみ処理は税金で主にやっているところがありますので、収入が限られた中でどこまで下げるかというのは、やはり各市の全体的な取り組みに合わせて維持されているのではないかなと思います。

その中で、こういう 3 市の市民の方が集まって、それぞれグループに分かれて話をするというのは非常に意義があって、どの市もいいところがきっと少しずつある。それをうまく組み合わせていくことで、よりよい状態にもっていけるいいなと思います。

乾燥した生ごみ関係も堆肥に持って行くとか、そういう今は行われているということがありますし、それがベストかどうかはまだ分からないわけですので、ま市民の目線でしっかりと考えていただくことが大事かなと思っています。

非常に丁寧な取組に感謝したところでございます。ありがとうございます。

そのほか、私が話した点で何か思いついたこととかございましたら、ご質問いただいても結構かと思えます。いかがでしょうか。

まだ、2 回目ということで、ワーキングというか小委員でも 2 回とか 3 回ということで少しずつ進んできていますので、2 回目ということの中間報告で、お互いのグループでどんなことをやっていくかということを理解していただけたということが、今日の収穫ではないかと思えます。

それでは、次の議題に入りたいと思います。議事次第「その他」ということになりますが、事務局よりよろしく願いいたします。

事務局

事務局から 2 点ほどご連絡をさせていただきたいと思えます。

まず初めに、浅川清流環境組合における可燃ごみ処理施設の施設見学についてになります。浅川清流環境組合では、年明け令和 3 年 1 月 18 日から一般の皆様の施設見学の受け入れが始められるように、現在準備を進めていると伺っております。

今後、コロナの影響が大きくならなければ、12 月 15 日の各市の広報でご案内を載せていきたいと伺っておりますので、そこから一般の方の受入れをしていく予定をしております。

	<p>本委員会では、環境学習などについても検討していく必要があるということから、施設見学における環境学習の内容を把握していただくために、情報グループについては、9月10日に先行して見学をしていただきました。減量グループの皆様におかれましては、本日委員会終了後に見学をさせていただくようお願いをしておりますので、ご案内をさせていただきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>また、誠に申し訳ございませんが、傍聴の皆様におかれましては、本日は、処理場見学は関係者のみとなっておりますので、見学をすることはできませんので、年明け1月の一般のお申込みをしていただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>1つ目は以上となります。</p>
宮脇委員長	<p>ただいまご説明いただきました施設見学について、何かご質問等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。</p> <p>それでは、続いて事務局よりお願いいたします。</p>
事務局	<p>2つ目となります。今後の会議の進め方と次回の全大会の日程についてでございます。</p> <p>本日、中間報告でご質問、ご意見などが出されたところもあるかと思っておりますので、次回全体会までに、また小委員会を開催していただきまして、意見の反映、また今後の検討を進めていただきたいと思いますと考えております。小委員会は年間5回を予定しておりますので、情報グループにつきましてはあと3回。また、減量グループにつきましてはあと2回、いろいろとご検討を進めていただければと考えております。</p> <p>もし、その回数ではちょっと足りないという状況がございましたら、改めて各市の事務局のほうにご相談を頂ければと思いますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>また、次回の全体会につきましては、年明け2月頃を予定しております。まだ会場、時間、日時等は決定しておりませんので、決まり次第早めにお知らせをさせていただきたいと思っております。そのときに、今年度分としての最終提案を頂ければと考えております。</p> <p>ただ、任期はもう1年、来年度末までございますので、無理にまとめて提案をしていただく必要はございません。2月までで提案をするのか、もしくはまた先延ばしで提案をしていくのかということについても、小委員会の中でじっくり検討していただければと思います。</p> <p>提案方法については、前回資料の中に昨年の提案書などをお配りさせていただいておりますので、そちらのほうを参考にいただければと思います。また、提案ではなく途中経過報告という形になる場合は、様式等は特に決まっておりますので、また事務局と相談しながら報告をしていただければと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>事務局からは以上となります。</p>

<p>宮脇委員長</p>	<p>ただいま事務局より、今後の進め方についてのご報告、説明がありました件について、委員の皆様方からご質問、ご意見などありましたらよろしく申し上げます。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。</p> <p>それでは、ちょっと早いところではございますけれども、本日の議題については以上となります。また、追加ご意見等は、各市に窓口がございますので、ご意見をお寄せいただくということと、次回またお会いできるまでに、幾つかグループで活動していただけると伺っておりますので、いろいろお手数をおかけしますが、ぜひよろしく願いいたします。</p> <p>それでは、本日の議題はこれで全て終了ということにさせていただきます。</p> <p>傍聴の方々、お忙しい中ご参集いただきまして、どうもありがとうございました。</p> <p>それでは、進行を事務局にお戻しいたします。</p>
<p>事務局</p>	<p>ありがとうございました。本日はお忙しい中、本当にありがとうございました。</p> <p>それでは、これをもちまして、令和2年度第2回3市ごみ減量推進市民会議のほうは閉会させていただきます。</p> <p>本日はどうもありがとうございました。</p> <p>施設見学に行かれる方におかれましては、こちらの場所には戻ってきませんので、荷物を持って移動していただければと思いますので、よろしく願いいたします。</p> <p>また、何かその他不明な点などございましたら、事務局のほうにご相談いただければと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>本日はどうもありがとうございました。</p>